

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 21 章 1~14 節>

ヨハネによる福音書はもともと 20 章が最終章でしたが、さらに 21 章が書き加えられました。その理由は、復活されたイエス様についての話を増やすことにあったようですが、話の内容は信仰的な示唆に富んでおり、加えられてよかったなと思います。神様に感謝。

①豊かだけれど不安よりも、貧しいけれど平安がいい。

復活の主に出会った弟子たちですが、まだガリラヤにいて生活は楽ではなかったようです。この後で弟子たちは主によって大漁といううれしい奇跡を経験しますが、まず注目しておきたいことは、彼らは楽ではない生活を受け入れて過ごしていたということです。主を信じて歩む生き方の始まりは、華々しくもなければ楽でもない生活であっても何の不思議もないのです。そこには「主の平安」があるからです。

②イエスさまの言われることに従って生きる。それが大事！

弟子たちはイエスさまだと分からなかったのに、どうして言われるままに従って網を打ったのでしょうか？ 生きておられたときにお持ちだった「権威」(マルコ 1:22)を感じたのでしょうか。はっきりしていることは、従ってよかったということです。イエスさまが、「あなたたちも、わたしに従いなさい」、そうわたしたちに呼びかけて下さっているように思います。

③ヨハネは冷静慎重派、ペトロは熱血行動派。でも二人ともOK！

「イエスの愛しておられたあの弟子」(7)とはこの福音書を書いたヨハネです。彼はいつも冷静慎重な人で、よく見つけ正しい判断を下します。この時も、主であることをいち早く見抜きました。ペトロは熱血行動派です。ヨハネの言うことを聞いて、すぐに海に飛び込みました(二人の違いは 20:3-6 でも)。人の性格はみな違います。違っていいのです。二人ともイエスさまのことを愛し、イエスさまも二人とも愛して下さっているのです。そして二人とも神様に用いられるのです。私たちも同じです。神様に造られたままの自分を愛し、神様に用いられることを考えて生きていけばいいのです。

④153 匹という数が意味することは？

大漁だった魚の数 153 匹が気になります。これは当時考えられていた世界中の魚の種類です。「人間をとる漁師にしよう」(マタイ 4:19)と弟子たちに言われたイエスさまの言葉を思い出します。わたしたちもまたその後続く漁師になるように呼びかけられているのです。